

第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 宮本 聡

1 単元名 「ヒロシマのうた」

2 目標

- ・ 戦争に関する作品に興味をもち、作品の主題について考えながら本を選んだり読んだりしようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ・ 登場人物の心情や情景を読み取り、作品に対する自分の考えをもちながら読むことができる。(読むこと)
- ・ 語句の意味を正確にとらえ、語句と語句との関係を理解することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、資料の内容や情報を提示し、読み手の興味関心を促す広告カード（POP）を作成する。ここで取り上げたPOPには、文章の要約や読み取ったことをもとに自分の考えを書き表すことが求められる。したがって、学習指導要領国語高学年の「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む」（C読むこと）（1）目標ことを実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

4 単元について

(1) 児童観（男11人 女14人 計25人）

4月に村内で実施した標準学力診断テストの結果から、本学級の児童は、「テキスト全体の構成や主旨を理解する力」や「自分の考えや主張を分かりやすく正確に伝える力」が市町村平均正答率よりも下回っている。そこで、本文の語句の意味や情景描写をきちんと理解させることにより、本文の内容や要旨を正確にとらえられるようにする。また、自分の考えを書いたり、発表したりすることを苦手とする児童が多いことから、本文の内容や要旨をまとめ、紹介するPOP作りに取り組み、表現力の育成に努めていきたい。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領第5学年及び第6学年の内容「C読むこと」エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」、また、オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を主なねらいとしている。

教材文「ヒロシマのうた」は、各場面により情景描写が変化し、登場人物の心情も時間と共に変化していく物語である。また、戦争の非情さや悲惨さが伝わる作品であるため、読み手の印象も感慨深いものになることが予想される。このことから、読んだことを自分の言葉でまとめるPOP作りを行うことにより、表現力の育成を図りたい。

(3) 指導観

指導にあたり、単元を貫く言語活動として、本を読んで推薦文を書く広告カード（POP）作りを取り入れる。POPを作成するためには、本の内容をしっかりと理解した上で、本文の中から印象的な語句を選び、読者が興味関心を抱くような書き方をする必要がある。そのため、まずは本文の内容を正確に読み取る必要がある。そこで、語句をクリックすると語句の意味や原爆投下時の様子がわかる動画や画像が出てくる自作のテキストを使って本文の読み取りを行う。これにより、語句の意味や情景描写を正確にとらえながら、叙述に即した読み取りができるようにする。その過程を通して、本文の内容を自分の言葉で要約し、短い言葉で物語の内容を表現するPOP作りに取り組みせるようにする。POPを作成するにあたり、タブレットPCを活用することにより、文字の色やフォントの変更、拡大・縮小を簡単に行い、時間を短縮して自由自在に作成することができるようにする。その結果、自分の考えに適した表現活動をすることができ、表現する喜びを味わいながら、その力を高められるようにしていく。

5 学習計画及び評価規準（8時間扱い）

次 (時間数)	学 習 活 動	評価規準		評価 方法
		おおむね満足できる状況	観	
1 (1)	・本文を通読して、疑問に感じたことや友だちと話し合いたいところを書き出す。 ・POPを紹介し、作成することを知らせる。	・物語に興味をもち、作品について考えながら読もうとしている。 ・POPの作成方法を理解する。	関 書	観察 発表 ノート
2 (4)	・原爆投下直後、赤ん坊を抱く母親を見た時の、「わたし」の心情を読み取る。 ・終戦から7年後、親子に会った時の「わたし」の心情を読み取る。 ・終戦から15年後、ヒロ子に母親のことを打ち明ける「わたし」の心情を読み取る。	・物語の流れをとらえ、情景描写や登場人物の心情をとらえながら読んでいる。 ・読み取ったことをもとに、各場面の内容をPOPにまとめることができる。 ・表現したり理解したりするために必要な語句をタブレットPCで調べることがで	読 書 言	観察 発言 発表 ノート POP

本時 4/4	・教科書の挿絵を背景に、「ヒロシマのうた」を紹介するPOPを作成する。(本時)	きる。		
3 (3)	・戦争に関する本を読み、読んだ本をPOPで紹介する。【3次では、背景となる絵や図も含めたものを作成する。】	・本の内容をわかりやすく伝えたり、相手を意識したりして書くことができる。	読 書	発表 POP

6 本時に使用するICT機器と場面

使用するICT機器 ・電子黒板 ・タブレットPC	活用場面	<input type="checkbox"/> 課題の提示 <input checked="" type="checkbox"/> 学習者の説明資料 <input checked="" type="checkbox"/> モデルの提示 <input type="checkbox"/> 比較	<input type="checkbox"/> 動機付け <input type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 失敗例の提示 <input type="checkbox"/> 体験の代行	<input type="checkbox"/> 教員の説明資料 <input type="checkbox"/> 思考の補助 <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input checked="" type="checkbox"/> その他(交流)
--------------------------------	------	---	--	---

7 本時の目標とICT活用のねらい

本時の目標	・「ヒロシマのうた」をPOPにまとめ、紹介することができる。
ICT活用のねらい	・物語の内容や要旨を自分の言葉で表現する力を高める。

8 本時の展開

配時	学習活動及び内容	指導上の留意点 (■ICT活用のねらいに対する支援)
5	1 本時の学習課題を知る。【わくわくタイム】 本屋さんのような人が思わず読みたくなる「ヒロシマのうた」のPOPを作ろう。	<p>■指導者が作成したPOPを電子黒板で提示し、紹介することにより、本時の学習の流れをつかませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本屋にあるPOPなどを用意し、掲示することで明確なイメージをもてるようにする。 ・POPを作る際の留意点を確認することにより、POP作りをスムーズに行えるようにする。 ・作成にあたり、教科書にある挿絵や指導者が用意した(物語に関連した)画像を背景として活用するように伝える。 ・自分なりの言葉で短く、読み手に興味関心を抱かせる書き方をするよう伝える。 ・背景にこだわらず、言葉の言い回しに重点をおいて考えるよう指示する。 <p>■作成の際、直接書きは、すばやく自由に書けること、キーボード打ちでは文字のスタイルを変えられることを伝え、用途によって使い分けていくよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成に戸惑っている児童には、印象に残っている言葉などに着目させ、その言葉を利用して作成するよう伝える。 ・グループ交流が活発に行えるようにするため、3～4人のチームを形成し、友だちの良い表現のしかたなどに着目するよう伝える。 <p>■個々の考えを皆で共有したり、比較したりするため、電子黒板に映して発表する。(授業支援システムを使う。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、意図的に指名し、書き表した言葉の理由をきちんと説明しながら発表するよう伝える。 ・友だちの作品から表現の良さを具体的に気付かせるため、発表後、観衆から良い点を挙げさせるようにする。 ・作品をさらに向上させるため、自身の作品を振り返り、修正点があれば修正するよう伝える。 <p>◎評価(読むこと、書くこと)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A 物語の内容を自分の言葉でPOPにまとめ、友だちに紹介している。(POP・観察・発表)</p> <p>B 本文に書かれている言葉を使いながら、物語の内容をPOPにまとめている。(POP・観察)</p> </div>
5	2 POPの作り方を確認する。 《POPの内容》☆必ず記載★自由に記載 ☆〔題名、著者名〕 ★〔含みのあるあらすじ、おすすめの場面、印象的な言葉、擬態語、擬音語など〕	
15	3 POPを作成する。【自分タイム】	
7	4 作成したPOPをチームで紹介し合う。【チームタイム】	
7	5 作成したPOPを発表する。【全体タイム】	
5	6 友だちのPOPを参考にしながら、自分の作品を振り返る。【きらきらタイム】	
1	7 次時の学習について知る。	